

チセヌプリスキージャンプ場譲渡先決定 再開へ関係者喜び

【蘭越】施設の改修費用を確保できず町が2013年から営業を休止、譲渡先を公募していたチセヌプリ（1134㍎）スキージャンプ場が2016年末にも民間の手



民間化されるチセヌプリスキージャンプ場。地域が一体となった観光振興が求められる

で再開される見通しとなり、スキージャンプ関係者らは胸をなで下ろしている。町は昨年、倶知安、ニセコ両町と構成する国の「ニセコ観光圏」の指定を受けたことから、復活に合わせた新たな観光戦略も求められる。

「半ばあきらめていました。涙を流して喜びたい気持ちです」。

札幌在住のプロスキーガイドで、13年にチセヌプリスキージャンプ場の存続を求める約7600人分の署名を町に提出した市村剛志さんは声を弾ませた。

パウダースノーに恵まれ、手付かずの自然の中を滑走できる同スキージャンプ場について「（営業休止後の）2年間、いろいろなスキージャンプを訪れたが、代わる場所はなかった」と振り返る。

同スキージャンプ場を譲渡されるのは人材派遣のUTホールディングス（東京）。同社が町に提出した事業計画によると、町民の利用料を割り引く優遇策や特産の「らんこし米」の社員向け販売などが盛り込まれ、町は「地域貢献が決め手の一つになった」と明かす。

ニセコ観光圏の指定を受け、町はニセコ方面からの玄関口となるJR昆布駅横に5月、同スキージャンプ場を含む

「奥ニセコ」の観光情報を発信する、らんこし・ニセコエリア情報センターを開設。同スキージャンプ場と隣接する町営の温泉施設の雪杖父も今秋、日帰り施設として建て替えオープンする。

一方、倶知安、ニセコ両町と比べ宿泊施設が少なく、今後は観光客の滞在日数をどう増やすかが問われる。町観光協会の佐藤義久会長は「新たな発想で経営していたければ」と期待を寄せ、「地元としても協力していきたい」と新たなスキージャンプとの連携に意欲を見せる。（小池伸之）